

下 式 い で の 黒 示 疑

定価 1400円

ISBN4-947637-01-3 C0036 ¥1400E

リベルタ出版

せき かん
石棺——チェルノブイリの黙示録

1987年10月8日第1刷発行

定価1400円

著者©	グーバレフ
訳者©	金光不二夫
発行者	田悟恒雄

〒101 東京都千代田区神田神保町1-30 正光ビル
発行所 リベルタ出版 印刷(株)ナール
製本 協栄社ブック
電話 03(293)2923 / 振替 東京 8-14083

〒101 東京都千代田区神田神保町1-30 正光ビル
発売元 株式会社 新興出版社

Printed in Japan

落丁・乱丁本は小社あてにお送りください。
送料小社負担にてお取替えいたします。

ISBN 4-947637-01-3 C0036

石



チェルノブイリの黙示録

棺



ウラジーミル・グーバレフ 著
金光不二夫 訳
リベルタ出版

Владимир Губарев
САРКОФАГ
из «Знамени» №. 9, 1986г.

© 1987 by the Publishers Libertà, Co. Ltd., Tokyo
Translated from Russian
by

F. Kanemitsu
Printed in Japan

This Japanese edition is published by arrangement
with the author and Copyright Agency of the USSR, Moscow
through Japan-Soviet Copyright Center, Tokyo.

目次

石 棺——チエルノブイリの黙示録	5
登場人物	8
第一幕	11
第二幕	95
訳者あとがき	173
チエルノブイリ原発事故日誌	3

カバーデザイン 伊藤良尾

石

棺

チ
ェ
ル
ノ
ブ
イ
リ
の
黙
示
録

『ズナーミヤ』誌一九八六年第九号所載

五月の初め、私はチェルノブイリに取材で飛ぼうとしていた。そこへ『ズナーミヤ』誌から原稿依頼の電話が入った。すべてをオーブンに、枚数は制限なし、スタイルは君にまかせると。それで話はついた。ただ一つ自分でも予想しなかったのは、この取材報告が戯曲、しかも悲劇になったことである。だがジャンルを選んだのは私ではない。

作 者

【登場人物】

プチーツイナ、リディヤ・ステパーノヴナ

教授

アンナ・ペトロローヴナ

医師（博士候補）

セルゲージェフ、レフ・イワーノヴィチ

研究所長

ヴェーラ〔信頼〕

研修医

ナジェージダ〔希望〕

研修医

リュボーフィ（愛称リューバ）〔愛〕

研修医

カイル

アメリカの教授

患者

病室 一号室

通称“チャリンコ”（空き巣狙い）

二号室

クラークおばさん（農婦）

三号室

消防士

四号室

運転手

五号室

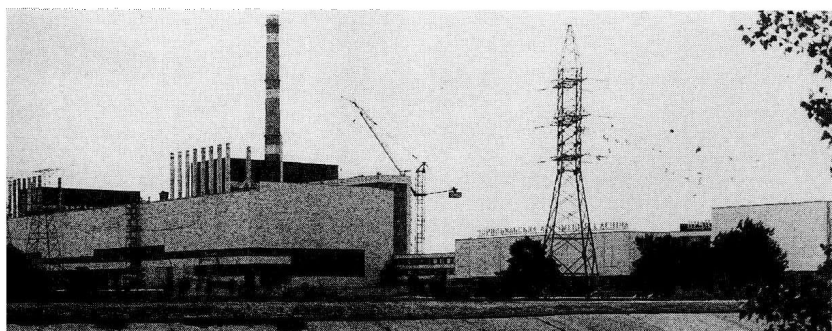
原発所長

六号室

放射線測定技師

七号室

オペレーター



八号室

内務省の将軍（消防司令）

九号室

物理学者

一〇号室

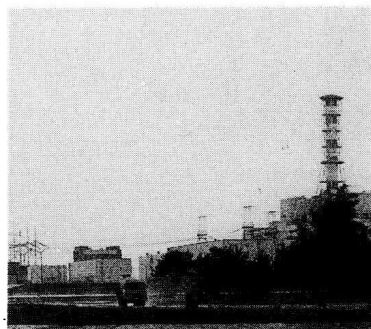
ベスメールトヌイ〔不死身の男〕

旧姓クローリク

〔ウサギ〕日本流に言えばモルモット〕

その他研究所員たち

場面は残念ながら現在のこと。



事故1年前のチェルノブイリ原発
提供：ノーボスチ通信

第一幕



チェルノブイリ原発主制御盤室（1985年撮影）、緊急時には数秒で原子炉を停止できるとの触れ込みだったのだが…… 提供：ノーボスチ通信

モスクワの放射線安全対策研究所実験部。大きなホールにゆったりした椅子が数脚置かれ、ここで毎朝簡単な打ち合わせがおこなわれる。上手の透明なシャッターの陰に当直の机。机の上にはガラスのケースに入った電話とスタンドがある。舞台の奥に病室が一〇室並び、その半透明のドアに番号がついている。

第一場

一〇号室だけに電灯がともり、あとの病室は暗い。病室からベスマールトヌイが出てきて、あたりを見回しながら、当直の机にそっと忍び寄る。ケースを開けようとするが、鍵がないので電話がかけられない。アンナ医師が入ってきて、ベスマールトヌイの挙動を見守っている。

アンナ医師　鍵なら私が持っているわよ。いったい誰に電話をしようというの。

ベススメールトヌイ 欲望は抑えがたし……。電話をしてもいいですか。相手は誰でもいいんです。人間の声さえ聞ければ。なにしろ一人じゃ退屈なんで……。ところで先生はもう休暇は終わったのですか。僕の計算じゃ、あと三日はゆっくりできるはずですが。

アンナ医師 所長のセルゲージェフに早くでてきてくれって頼まれたのよ。二週間後に学会があつて発表するんですって。(ホールに入り、椅子にすわる)。休暇でくたただわ。

ベススメールトヌイ 南のサナトリウムにいらっしやいとあれほど僕が勧めたのに。別荘じゃゆっくり休めませんよ。いろんな作物があるんでしょ、ニンジンとかサクランボとか。……

アンナ医師 サクランボは三週間ばかりあとよ。

ベススメールトヌイ だいたい別荘は手がかかりますよ。と言っても僕は別荘なんか持つことはありませんが、でもそうじゃないですか……。南には僕も行ったことがありますよ、アループカ〔黒海に臨む保養地〕に。組合から優待券をもらつて……。かれこれ一〇年ほど前ですが南のことは頭に焼きついています……。もっとも泳ぎはしませんでした、もう寒かったので。一二月か一月でしたか。いまでも覚えています、ものすごく泳ぎたかったな。ある日みんなと一杯ひっかけて海に出かけました。そして服をぬぎかけたとたん、そこに国境警備隊員が……

アンナ医師 アループカになんで国境警備隊員が?!

ベススメールトヌイ いないのですか? じゃ警官でしょう。結局泳がせてくれませんでした。

残念です！ そんなわけで、これまで一度も海では泳いだことがないんです……。でも先生の休暇が終わってよかった。まわりは臨時雇いの当直で臆病者ばかり。マスクをしたらとらないんだから……。さんさん大丈夫だって言ったんですが、だめでした……。伝染病患者みたいに僕をこわがって……

アンナ医師 あんたはもう一〇号室に移ったの。

ベススメルトヌイ 前の部屋は飽きあきです。一〇号室にしばらくいて五号室に行きますよ。なんたって真ん中ですから。それとも一号室から順に始めますか。

アンナ医師 お好きなようになさい……。クロスワードを集めてあげたわ。ぜんぶの新聞の（切り抜きを差し出す）。

ベススメルトヌイ じゃ、覚えていくださったんですね。ありがとうございます……。先生がおられなくて退屈でした。やはりインテリは違いますね、話題が豊富で。

アンナ医師 研究所に新しい研修医が来ました。若い女医で、原発で働いているんですって。よかったら紹介するわ。

ベススメルトヌイ 先生のおっしゃることにさからえますか、この僕が。先生のご希望は僕にとつては絶対です。医学に必要とあればいつでもお役に立ちます。

アンナ医師は当直の机に行き、鍵でケースをあけ、電話のダイヤルをまわす。

アンナ医師（受話器に向かって）待ってました……。三人ですって……。ええ、わかりました、プーチツィナ先生、ぜんぶくわしく説明します。あの人たちに教えることはわかっています……。じゃ、よこしてください……

ベススメルトヌイ　すぐ来るんですか。

アンナ医師　いま温室にいるわ。

ベススメルトヌイ　あそこには僕も行きました。所長さんのお許しで見学に。おもしろいところですね。白キノコがそりゃみごとでした。それで思わず、この部屋くらいの大きなキノコを栽培したらどうかって言っちゃいました。四大家族が食べられるように。スープも焼きキノコも、それに貯蔵用にキノコソースもできるように。そしたらあそこにとてもかわいい、おそろしく笑い上戸の実験助手がいて、「あんたストロンチウムのこと忘れたの」と言っちゃ笑うじゃありませんか。この僕が忘れっこないでしょう。ですから先生、お願いします、キノコの放射能を取り除く研究をしてください。そして中国白キノコだらけにしましょう……。どうです？　いいプランでしょう？